

構造体強度補正值 mS_n の標準値(JASS5-2015)

米沢地区

～標準養生した供試体の材齢28日における圧縮強度と構造体コンクリートの材齢91日における圧縮強度の差～

(mS_n は、特記によるが、特記のない場合は m を28日、 n を91日とし、下表により S 値を定める。・・・JASS5-2015 P235より)

構造体強度補正值 S	6	3	6 (暑中適用期間)	(寒中適用期間)
適用条件	打ち込みから28日までの予想平均気温・期間		日平均気温・期間	旬の日平均気温・期間
普通ポルトランドセメント	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 8^{\circ}\text{C}$	$8^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	10月27日～12月14日 2月14日～3月29日	3月30日～10月26日 (暑中適用期間を除く)	7月31日～8月8日	12月1日～3月31日
早強ポルトランドセメント	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 5^{\circ}\text{C}$	$5^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	11月11日～12月14日 2月14日～3月17日	3月18日～11月10日 (暑中適用期間を除く)	7月31日～8月8日	12月1日～3月31日
高炉セメントB種	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 13^{\circ}\text{C}$	$13^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	10月4日～12月14日 2月14日～4月19日	4月20日～10月3日 (暑中適用期間を除く)	7月31日～8月8日	12月1日～3月31日

調合管理強度: F_m (呼び強度) = 品質基準強度: F_q (設計基準強度: F_c 又は耐久設計基準強度: F_d の大きい方) + 構造体強度補正值 mS_n

- ・構造体コンクリートの圧縮強度は、標準養生供試体強度(材齢28日)が調合管理強度(呼び強度)以上であれば合格とする。
- ・構造体から採取したコア供試体(材齢91日)による場合は品質基準強度以上であれば合格とする。
- ・現場水中養生供試体による場合、材齢28日までの平均気温が 20°C 以上の場合は、圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であれば合格とする。
- ・また平均気温が 20°C 未満の場合は、圧縮強度の平均値から $3\text{N}/\text{mm}^2$ 減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。(以上JASS 5-2015 P397より)

(観測点) 北緯: 37度54.7分 東経: 140度08.6分 標高: 245m

(気象庁:過去の気象データ) 日ごとの値 2008年～2017年 による。(積算温度 M_{91} が 840° D・Dを下回る期間はありません。)

構造体強度補正值 mS_n の標準値(JASS5-2015)

高畠地区

～標準養生した供試体の材齢28日における圧縮強度と構造体コンクリートの材齢91日における圧縮強度の差～

(mS_n は、特記によるが、特記のない場合は m を28日、 n を91日とし、下表により S 値を定める。・・・JASS5-2015 P235より)

構造体強度補正值 S	6	3	6 (暑中適用期間)	(寒中適用期間)
適用条件	打ち込みから28日までの予想平均気温・期間		日平均気温・期間	旬の日平均気温・期間
普通ポルトランドセメント	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 8^{\circ}\text{C}$	$8^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	10月27日～12月15日 2月12日～3月29日	3月30日～10月26日 (暑中適用期間を除く)	7月26日～8月18日	12月1日～3月31日
早強ポルトランドセメント	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 5^{\circ}\text{C}$	$5^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	11月11日～12月15日 2月12日～3月15日	3月16日～11月10日 (暑中適用期間を除く)	7月26日～8月18日	12月1日～3月31日
高炉セメントB種	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 13^{\circ}\text{C}$	$13^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	10月5日～12月15日 2月12日～4月19日	4月20日～10月4日 (暑中適用期間を除く)	7月26日～8月18日	12月1日～3月31日

調合管理強度: F_m (呼び強度) = 品質基準強度: F_q (設計基準強度: F_c 又は耐久設計基準強度: F_d の大きい方) + 構造体強度補正值 mS_n

- ・構造体コンクリートの圧縮強度は、標準養生供試体強度(材齢28日)が調合管理強度(呼び強度)以上であれば合格とする。
- ・構造体から採取したコア供試体(材齢91日)による場合は品質基準強度以上であれば合格とする。
- ・現場水中養生供試体による場合、材齢28日までの平均気温が 20°C 以上の場合は、圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であれば合格とする。
- ・また平均気温が 20°C 未満の場合は、圧縮強度の平均値から $3\text{N}/\text{mm}^2$ 減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。(以上JASS 5-2015 P397より)

(観測点) 北緯: 38度00.2分 東経: 140度12.4分 標高: 220m

(気象庁:過去の気象データ) 日ごとの値 2008年～2017年 による。(積算温度 M_{91} が 840° D・Dを下回る期間はありません。)

構造体強度補正值 mS_n の標準値(JASS5-2015)

長井地区

～標準養生した供試体の材齢28日における圧縮強度と構造体コンクリートの材齢91日における圧縮強度の差～

(mS_n は、特記によるが、特記のない場合は m を28日、 n を91日とし、下表により S 値を定める。・・・JASS5-2015 P235より)

構造体強度補正值 S	6	3	6 (暑中適用期間)	(寒中適用期間)
適用条件	打ち込みから28日までの予想平均気温・期間		日平均気温・期間	旬の日平均気温・期間
普通ポルトランドセメント	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 8^{\circ}\text{C}$	$8^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	10月27日 ～ 12月17日 2月11日 ～ 3月30日	3月31日 ～ 10月26日 (暑中適用期間を除く)	8月3日 ～ 8月7日	12月1日 ～ 3月31日
早強ポルトランドセメント	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 5^{\circ}\text{C}$	$5^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	11月11日 ～ 12月17日 2月11日 ～ 3月16日	3月17日 ～ 11月10日 (暑中適用期間を除く)	8月3日 ～ 8月7日	12月1日 ～ 3月31日
高炉セメントB種	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 13^{\circ}\text{C}$	$13^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	10月4日 ～ 12月17日 2月11日 ～ 4月20日	4月21日 ～ 10月3日 (暑中適用期間を除く)	8月3日 ～ 8月7日	12月1日 ～ 3月31日

調合管理強度: F_m (呼び強度) = 品質基準強度: F_q (設計基準強度: F_c 又は耐久設計基準強度: F_d の大きい方) + 構造体強度補正值 mS_n

- ・構造体コンクリートの圧縮強度は、標準養生供試体強度(材齢28日)が調合管理強度(呼び強度)以上であれば合格とする。
- ・構造体から採取したコア供試体(材齢91日)による場合は品質基準強度以上であれば合格とする。
- ・現場水中養生供試体による場合、材齢28日までの平均気温が 20°C 以上の場合は、圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であれば合格とする。
- ・また平均気温が 20°C 未満の場合は、圧縮強度の平均値から $3\text{N}/\text{mm}^2$ 減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。(以上JASS 5-2015 P397より)

(観測点) 北緯: 38度06.3分 東経: 140度00.9分 標高: 210m

(気象庁:過去の気象データ) 日ごとの値 2008年～2017年 による。(積算温度 M_{91} が 840° D・Dを下回る期間はありません。)

構造体強度補正值 mS_n の標準値(JASS5-2015)

高峰地区

～標準養生した供試体の材齢28日における圧縮強度と構造体コンクリートの材齢91日における圧縮強度の差～

(mS_n は、特記によるが、特記のない場合は m を28日、 n を91日とし、下表により S 値を定める。・・・JASS5-2015 P235より)

構造体強度補正值 S	6	3	6 (暑中適用期間)	(寒中適用期間)
適用条件	打ち込みから28日までの予想平均気温・期間		日平均気温・期間	旬の日平均気温・期間
普通ポルトランドセメント	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 8^{\circ}\text{C}$	$8^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	10月24日～12月13日 2月17日～4月5日	4月6日～10月23日 (暑中適用期間を除く)	8月5日～8月7日	11月21日～3月31日
早強ポルトランドセメント	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 5^{\circ}\text{C}$	$5^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	11月9日～12月13日 2月17日～3月23日	3月24日～11月8日 (暑中適用期間を除く)	8月5日～8月7日	11月21日～3月31日
高炉セメントB種	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 13^{\circ}\text{C}$	$13^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	10月1日～12月13日 2月17日～4月24日	4月25日～9月30日 (暑中適用期間を除く)	8月5日～8月7日	11月21日～3月31日

調合管理強度: F_m (呼び強度) = 品質基準強度: F_q (設計基準強度: F_c 又は耐久設計基準強度: F_d の大きい方) + 構造体強度補正值 mS_n

- ・構造体コンクリートの圧縮強度は、標準養生供試体強度(材齢28日)が調合管理強度(呼び強度)以上であれば合格とする。
- ・構造体から採取したコア供試体(材齢91日)による場合は品質基準強度以上であれば合格とする。
- ・現場水中養生供試体による場合、材齢28日までの平均気温が 20°C 以上の場合は、圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であれば合格とする。
- ・また平均気温が 20°C 未満の場合は、圧縮強度の平均値から $3\text{N}/\text{mm}^2$ 減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。(以上JASS 5-2015 P397より)

(観測点) 北緯: 37度59.9分 東経: 139度57.4分 標高: 250m

(気象庁:過去の気象データ) 日ごとの値 2008年～2017年 による。(積算温度 M_{91} が 840° D・Dを下回る期間はありません。)

構造体強度補正值 mS_n の標準値(JASS5-2015)

小国地区

～標準養生した供試体の材齢28日における圧縮強度と構造体コンクリートの材齢91日における圧縮強度の差～

(mS_n は、特記によるが、特記のない場合は m を28日、 n を91日とし、下表により S 値を定める。・・・JASS5-2015 P235より)

構造体強度補正值 S	6	3	6 (暑中適用期間)	(寒中適用期間)
適用条件	打ち込みから28日までの予想平均気温・期間		日平均気温・期間	旬の日平均気温・期間
普通ポルトランドセメント	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 8^{\circ}\text{C}$	$8^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	10月26日～12月20日 2月9日～4月5日	4月6日～10月25日 (暑中適用期間を除く)	8月4日～8月7日	12月1日～3月31日
早強ポルトランドセメント	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 5^{\circ}\text{C}$	$5^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	11月11日～12月20日 2月9日～3月23日	3月24日～11月10日 (暑中適用期間を除く)	8月4日～8月7日	12月1日～3月31日
高炉セメントB種	$0^{\circ}\text{C} \leq \theta < 13^{\circ}\text{C}$	$13^{\circ}\text{C} \leq \theta$	$25^{\circ}\text{C} < \theta$	$\theta \leq 4^{\circ}\text{C}$
	10月3日～12月20日 2月9日～4月25日	4月26日～10月2日 (暑中適用期間を除く)	8月4日～8月7日	12月1日～3月31日

調合管理強度: F_m (呼び強度) = 品質基準強度: F_q (設計基準強度: F_c 又は耐久設計基準強度: F_d の大きい方) + 構造体強度補正值 mS_n

- ・構造体コンクリートの圧縮強度は、標準養生供試体強度(材齢28日)が調合管理強度(呼び強度)以上であれば合格とする。
- ・構造体から採取したコア供試体(材齢91日)による場合は品質基準強度以上であれば合格とする。
- ・現場水中養生供試体による場合、材齢28日までの平均気温が 20°C 以上の場合は、圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であれば合格とする。
- ・また平均気温が 20°C 未満の場合は、圧縮強度の平均値から $3\text{N}/\text{mm}^2$ 減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。(以上JASS 5-2015 P397より)

(観測点) 北緯: 38度04.7分 東経: 139度44.1分 標高: 140m

(気象庁:過去の気象データ) 日ごとの値 2008年～2017年 による。(積算温度 M_{91} が 840° D・Dを下回る期間はありません。)